

活動を通しての学び

社会福祉学部社会福祉学科 2年 宮寄 晴香

活動先：NPO 法人 プレママクラブ

クラス：松下 典子 先生

私はこの一年間サービスマナーのクラスで様々なことを学んできた。この学びや気づきについて述べていきたいと思う。

まず、NPO についてである。私は今まで NPO の存在は知っていたが、深く考えたことが無かった。どのような取り組みをしていて、どのような利用者がいるのかということが全く分からなかった。しかし、SL の講義で NPO というものがいかに地域に根付いていて、地域の一部であるかということを知った。また、NPO は市民・自治体・国など様々な組織が関連して成り立っていて、NPO だけの力ではなく、たくさんの力を得ているということを知った。その中でもやはり市民の力が重要であり、市民の声・行動が NPO を動かしていると言っても過言ではないと思う。それくらい NPO は地域にとって大切な居場所であり、人々の生きがいに繋がっているのである。

次に、私のクラスでは児童・障害児者・高齢者・成年後見制度といった様々な分野の活動先が集まっていた。講義で自分の活動報告を行ったり、他のグループの活動報告を聞いたりすることで、NPO にもいろんな分野の NPO があり、同じ NPO でもそれぞれに特徴があり、取り組みや理念も全く異なっているということを知った。また、NPO がある地域もそれぞれ異なっており、その地域に見合った取り組みが行われていた。他の NPO を知ることで自分の活動先と比較し考えることができた。

さらに、活動に向けてのグループワークでは、グループ間での協力が大切であり、自分がどうしたいのかをしっかりと言葉で表現する必要があるということを知った。短い期間の中で考え企画することは難しいが、グループで意見を出し合いながら進めていくことが大事だと感じた。そのためにも活動の目的をはっきりとさせることが大事であり、その目的を達成できるような企画を考えていくべきである。

実際の 6 日間の活動を通しての気づきとしては、指導員としての立場と遊び相手としての立場をしっかりと区別するという点である。ダメなことはダメとしっかり叱ること、また、子供が主体であり、なんでも構うのではなく見守りも必要だということを知った。広い視野を持って関わっていくことの大事さを、この 6 日間の中で強く感じた。

このように、活動を通して様々な学び・気づきができた。今まで NPO について何も知らなかった私が NPO に興味を持ち、地域福祉をもっと学んでみたいと思うようになった。この一年間の中で、このように様々な成長をすることができた。私は今まであまり自分の意見を言うことはなく、周りの意見に合わせる方だった。しかし、グループで企画を考えていくことで、どうしたらもっと良くなるのか、利用者さんに楽しんでもらえるのかというように自分で考え、その考えを自分の言葉で伝えることができるようになった。また、話し合いを基に、企画を自分たちで考え計画し、実行していくという力をつけることができた。

一から考えるというのは初めてのことで迷いがたくさんあったが、協力し合うことで成

し遂げることができた。初めは難しくて、無理だろうと感じていたが、やっていくうちに企画することが楽しいと感じるようになっていった。また、利用者さんや職員さんとの関わりからコミュニケーション力を身につけることができたと思う。周りを見て、状況に合わせた行動をとること、視野を広げて子供たちと関わっていくことが大切だと学んだ。

さらに、活動報告会を通して、自分達の活動を多くの方に伝えていくという力を身につけることができたと思う。活動の学びを簡潔に伝えることはこんなにも難しいのだと実感した。しかし、しっかりと自分の考えを述べて、周りに伝えていくことはとても大事なことでと学んだ。

次に、これまでの地域・社会との関わりの中での気づきから、社会活動について考えていきたいと思う。

私の活動先は半田市にある学童保育所である。そこでは、20名以上の子供たちが共に学び、遊びながら一日を過ごしていた。このNPOでは、学童保育以外にも英語やピアノなどの習い事や障害児を対象としたデイサービスの取り組みも行っていた。このように仕事で忙しい母親に代わって子育てをする場として、この地域と関わりを持っている。母親の様々な要望から今の取り組みがあり、長期の休み以外でも利用する方がたくさんいる。

実際に6日間活動してみると、たくさんの子供達と楽しそうにはしゃぐ姿がとても印象的で、働く母親にとってだけでなく、利用している子供達の成長の場にも繋がっていると感じた。初めて6日間という期間活動を行って、NPOがいかにか地域と密着しているのかということを知った。

NPOは職員のみだけでなく、自治体の力や市民の力などいろんな協力を得て成り立っている。市民の悩み・要望に合わせて、より住みやすく、安心して暮らすことができる町にしたいという考えから様々なサービスを提供している。この活動は社会を良くしていこうとする社会活動の一つとなっている。もともとは小さな活動だった。しかし、その小さな活動がここまで大きく成長することができたのは市民がいたからである。人々の声・活動はNPOにとって最も大切であり、支えである。NPOは地域にとってのコミュニケーションの1つの場、生きがいの場であり、「居場所」でもある。NPOがより多くの地域の方の居場所となれるように、もっと大きく成長できるようになると良いと思う。そのためには情報提供をして多くの方にNPOの活動を知ってもらうこと、このような場がこの地域にはあるということを感じてもらうことが大事だと考える。そして、その地域に合わせた取り組みをしていく必要があると思う。また、SLを学んだ私達学生もNPOがさらに地域にとっての居場所となるように努力していくべきだと考える。

1年間SLで学んできて、様々な気づきをすることができた。初めは何も知らなかったNPOの取り組みについても知ることができた。さらにNPOは地域にとってなくてはならないものであり、人々の生きがいの1つとなっているということを学びを通して知ることができた。また、自分たちで考え、実行していくことがどんなに自分の成長に繋がるのかを学んだ。この活動での学びをこれからの人生でも生かして、もっといろんなNPOについて学び、関わっていききたいと思う。SLでの学び、縁を無駄にすることなくこれからの大学生活を充実したものにしていきたい。